

中川町地域おこし協力隊

／ 特別号 ／

Local Crew Magazine

N
A
K
A
G
A
W
A
T
O
W
N



中川町での暮らしと活動—

地域とともに歩む毎日。

2026 / vol.3

03

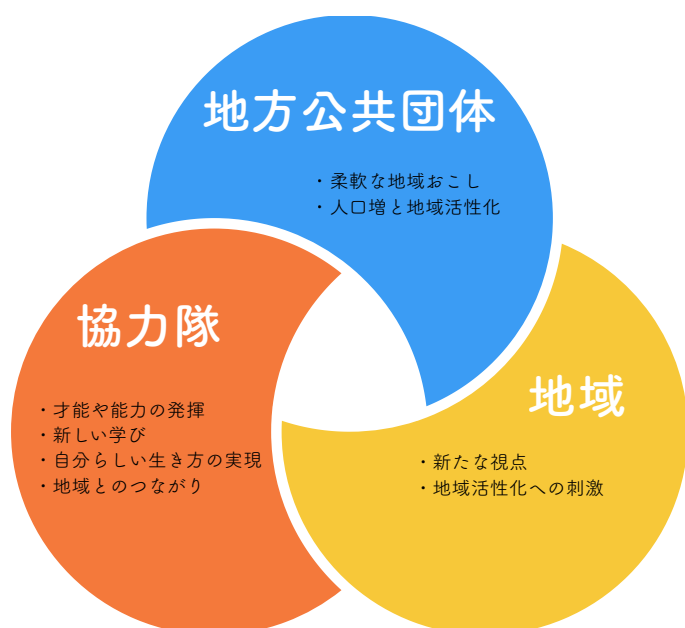
山 外 片 新 佐 卜 橋 平 和 豊 志 川 宮 橋 田 反 中 伊 出 中 オ 鈴
口 崎 峰 谷 々 部 爪 塚 泉 嶋 村 島 川 爪 辺 中 村 東 水 村 ウ 木
拓 翔 麻 圭 悠 淑 映 竣 め 晋 源 幸 啓 信 梨 直 淳 知 吏 ゴ 謙
海 大 美 子 樹 人 子 子 也 ぐ 平 徒 史 吾 彦 奈 弘 一 美 智 セ ン 友

地域おこし協力隊とは？



一定期間、地域に居住しながら、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PRといった地域おこしの支援活動や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」に携わり、その地域への定住・定着を目指す取り組みです。

地域おこし協力隊になるためには、都市部から過疎地域などの特定地域へ転居することなど、一定の条件が存在します。



関連制度：

おためし地域おこし協力隊

地域おこし協力隊インターン

地域おこし協力隊アドバイザー



総務省「地域おこし協力隊ナビ」ページ

中川町 3種類の委嘱型



任用型

役場の会計年度任用職員として雇用され、配属された課の業務の範囲で活動します。

町が委嘱し、町との雇用契約を結んでいただくため、各種手当や社会保障がある代わりに就業時間内の副業は制限されます。

委託型（課題解決型）

受入事業者による研修や活動支援を受けながら、二次創業や新規事業の展開等を図ることにより、地域課題を解決します。

町が委嘱し、町が委託する受入事業者と雇用契約を結んでいただきます。

委託型（起業型）

「中川町を舞台に新たな価値（暮らしや経済）を作り出す起業家」として選考。町が委嘱しますが、雇用契約は結ばずに活動していただけます。



中川町の地域おこし協力隊の現状

令和8年6月30日現在、中川町で活動している地域おこし協力隊は22名います。

令和5年（2023年）度委嘱・・・6名

- ・鈴木 謙友 ・オウ ゴセン ・中村 吏智 ・出水 知美
- ・伊東 淳一 ・中村 直弘
- ※鈴木 謙友は令和8年7月17日で任期満了につき卒業

令和6年（2024年）度委嘱・・・6名

- ・反中 梨奈 ・田辺 信彦 ・橋爪 啓吾 ・宮川 幸史
- ・川島 源徒 ・志村 晋平

令和7年（2025年）度委嘱・・・6名

- ・豊嶋 めぐみ ・和泉 竣也 ・平塚 映子 ・吉川 淑子
- ・卜部 悠人 ・佐々木 樹

令和8年（2026年）度委嘱・・・4名

- ・新谷 圭子 ・片峰 麻美 ・外崎 翔大 ・山口 拓海

協力隊特別号を創刊した理由

今までは広報ナカガワの誌面で地域おこし協力隊1人につき、写真1枚と50文字程度で活動を報告していました。しかし、それでは地域おこし協力隊一人一人の詳しい活動内容が町民のみなさんにお伝えしきれないという問題がありました。

それを解決するために、地域おこし協力隊の活動報告のみを掲載した広報ナカガワの特別号を作ることになりました。一人あたりの記事量を大幅に増やして、より町民のみなさんが興味を持っていただけるように細かい活動報告をお伝えできるようにと思っています。

なお、この地域おこし協力隊特別号は、3ヶ月に1度発行の季刊号として発行していく予定です。



・変更前



・変更後

ふるさと納税でも活躍中

中川町の魅力を全国へ届けるため、現役メンバーだけでなく卒業したOB隊員も大活躍！ここでしか味わえない特別な体験ツアーから、こだわりの地場産品まで、新旧の協力隊の想いが詰まった自慢のふるさと納税返礼品ラインナップをご紹介します。

町外にお住まいのご家族やご友人に紹介していただけますと幸いです。



トレイルランニングガイド by bigfoot trail works

プロによるトレイルランニングガイドツアー。中川町の自然を舞台に、ビギナーからシリアスまで幅広レベルに合わせて指導。パーソナルコーチングとツアーガイドがセットになった特別なチケットです。



フライフィッシングガイド by POTAMOS

町の8割が森に囲まれた北海道中川町。幻の魚「イトウ」をはじめ、数多くの渓流魚が泳ぐ天塩川で美しい魚たちと出会いませんか？初心者から経験者まで、経験値に合わせた安心のガイドを行っております。



プライベートサウナ by Join Cabin

オリジナルサウナカーを利用したサウナ体験です。中川町の自然の中に乗り込みサウナを楽しみましょう。場所は、おすすめの場所に車を設置しますので、運転は不要です。



シャケジャーキー by フロンティアツリー

道北の自然豊かな森と海が育んだ鮭を余すところなく使用した、無添加・無味の安心ペット用シャケジャーキー。与えやすいカットタイプを便利なジップ付パックに。お散歩やご褒美に最適です。



ORIKOMI by 10 to 10

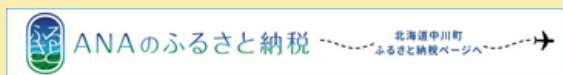
工具・組み立て不要の簡単展開フォールディングテーブル。高さは2WAY仕様。鍋敷き不要の黒皮鉄天板は熱い調理器具を直置きでき、棚板にも。地産木材に伝統の鯨の骨柄をあしらった北海道らしさ溢れる逸品。



KIKORIのたき火セット by Rawwood

中川町の森で伐採したシラカバやケヤマハンノキなど、火付きの良い樹種を詰め合わせた焚き付けセットです。薪ストーブはもちろんのこと、バーベキューやキャンプファイヤーでも活躍します。

～中川町ふるさと納税サイト～



任期満了の節目に想う中川町での足跡

感謝を込めて、次なるステージへ。

本州でのプロモーションと、
3町連携アドベンチャーツアーの始動



4月初旬、例年参加している取引先主催のイベントに出展して参りました。2日間で計約4万人の方が本イベントにご来場、全69ブースはどこも活況で、当ブースでも自社商品の販売、中川町ふるさと納税のご案内/パンフレット配布などで終日接客にあたりました。準備日を含め、正味3日間横浜市に滞在しましたが、既に本州は初夏のような気温。中川町との寒暖差が激しく、体調を崩しました。

4月中旬には中川町・下川町・名寄市の有志でトライアル的に行ったアドベンチャーツアーの運営サポートとして参画。2泊3日のツアー日程にて中川町ではBBQハウスでの会食やキャンプ泊、町営牧場までの軽ハイク（ライトハイキング）とアウトドアランチを提供。天気に恵まれたこともあり、町営牧場頂上からくっきりと見えた利尻富士が本ツアーのハイライトでした。

起業型

鈴木 謙友

《活動内容》

中川を拠点とした商
活動、町内イベント
の装飾請負、子ども
向けキャンプイベン
ト催行など



活発化する飲食・ものづくりミッションと、これからのイベント

4月下旬から飲食に関わるミッションが活発に。ポンピラ温泉内休憩室での軽食営業、GW期間中のエコミュージアムセンター内でのランチ営業、花たびそうや/花たびマルシェでの飲食営業と続けました。各出店それぞれにお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました！

飲食事業の傍ら、什器製作の業務も受託。商品陳列/イベント用にテーブルを4台製作し、稚内市の相沢食料百貨店様に納品させていただきました。6月は町外でのフードイベントへの出店が2件、7月は町内でのフードイベントを企画しております。町内のイベントに関しては日程が確定し次第IP等で告知させていただきますので、宜しくお願いいたします。

協力隊任期満了のご挨拶：これからも中川町を拠点に

早いもので、本年7月にて地域おこし協力隊としての任期満了となるため、本寄稿が最後となります。これまで御世話になった方々に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました！今後も変わらず中川を拠点に活動していきますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。





国境を越えて中川の魅力を発信。 台湾での大学講義と母校への視察

任用型 オウゴセン

《活動内容》
インバウンド向けの
観光発信、観光協会
事務仕事

美深町の仲間との出会い、そして台湾の大学で伝える協力隊の仕事

みなさん、こんにちは。ミシェルです。今回は4月から6月までの活動を振り返ってみたいと思います。4月に地域おこし協力隊の大報告会に参加しました。そこで、美深町で協力隊として活動されている韓国人の方とお会いしました。お互いに地方での観光プロモーションにおける難しさや意見について語り合いました。こんなに北の地域で、自分と同じように協力隊として奮闘している外国人の仲間がいるとは思ってもみなかったので、とても新鮮で面白い刺激を受けました。

5月に台湾に出張しに行きました。銘伝大学と高雄ホスピタリティ大学からお招きいただき、大学生のみなさんに自身の留学経験や協力隊の仕事についてお話しする機会をいただいたためです。講演会では、自分の日本語の勉強方法や日本語学校での生活、道北中川町の魅力や協力隊の活動内容についてシェアしました。学生たちにとって「地域おこし協力隊」という仕事は初めて聞くものばかりで、その制度や活動内容にとっても興味を持ってくれたようです。「日本が地方創生にこれほど力を入れているとは知らなかった」「将来、日本で働く選択肢が広がった」といった感想も聞かれました。自分がこれまで歩んできた経験を整理し、学生たちに伝えられたことは、私にとっても大きな誇りです。今回の縁が、将来的に中川町へ優秀な人材を呼び込むきっかけになれば嬉しく思います。

母校・東川町での人材誘致

6月に公社（地域開発振興公社）の和泉さんと一緒に、東川町立東川日本語学校へ視察に行ってきました。東川町立東川日本語学校は母校でもあります。現在、学校には多くの学生が在籍しており、地域おこし協力隊に興味を持つ人も増えているそうです。今回は学校関係者の方々に、協力隊の制度や中川町の求人について簡単に説明させていただくとともに、授業の様子や学校の環境を見学しました。協力隊に関心を寄せる多くの学生たちの姿を見て、中川町の素晴らしいところを彼らにしっかりと伝えていきたいと改めて強く思いました。



時間が経つのは本当に早いもので、私の協力隊としての任期も残り3ヶ月を切りました。しかし、任期が終わったあとも、引き続き中川町の魅力を発信し続けていきたいと思っています。これからも暖かい目で見守っていただけると幸いです。



課題解決型

中村 吏智

《活動内容》
酪農ヘルパー業務
をしながら、チー
ズ工房設立に向け
て準備中。

放牧の春、酪農の現場を支える。 ヘルパー活動とQUESERIA FAROが紡ぐ絆

酪農ヘルパーとしての活動：放牧の季節、酪農家さんの安心を支えるために

当期間中、中川町内の酪農家さんのもとで、計74回の酪農ヘルパー業務に従事しました。春を迎え、町内の牧場では放牧が始まり、牛たちが牛舎から外へ出て草を食む姿に、季節の移り変わりを実感しています。

一方で、酪農家さんにとっては牧草の作業も始まる時期であり、搾乳や牛舎管理などの日常業務に加えて、畑での作業も重なる大変な季節です。日々のヘルパー業務では、それぞれの牧場のやり方を尊重しながら、安全で確実な作業を心がけています。酪農家さんが少しでも安心して休みを取れるよう、今後も中川町の酪農を支える一員として努めてまいります。

QUESERIA FAROとしての活動

QUESERIA FAROとしては、中川町内でのチーズ販売会や試食会などを通じて、町の皆さまにチーズを知っていただく活動を行いました。特に印象的だったのは、普段は酪農ヘルパーとして関わっている酪農家さんが、販売会や試食会にも足を運んでくださったことです。日々の作業の場とは異なるイベントの場で、しかも普段あまりイベントに参加されない酪農家さんにもチーズに関心を持っていただけたことを、大変うれしく感じました。

酪農ヘルパーとしての中川町酪農支援と、QUESERIA FAROを通じた中川町の発信の両面において、引き続き尽力してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



丁寧なチーズ作りを食卓へ。

起業型 出水 知美

《活動内容》

中川町産生乳を使った、チーズ・乳製品製造の工房を立ち上げるために相方の中村吏智と準備中。



取引先との関係性：興部町での製造継続と、支えとなる皆さまへの感謝

興部町での製造を継続しています。有難いことに少しずつ取引先や取引量も増え、多くの方に私たちのチーズを食べていただけるようになり、たくさんの方に応援していただいていることを日々感じています。チーズ製造はとても単調な作業の繰り返しです。牧歌的でゆったりとしたイメージとは異なり、熱気の中で速く正確に作業を進めることが求められます。また、発酵食品であるため製造時間も長く、集中力が欠かせません。最近は辛い時に、取引先の方々の顔が思い浮かび、励まされることがあります。私たちのチーズを待っていてくださる方がいることが、大きな力になっています。製造や包装、出荷の過程で思うようにいかず、ご迷惑をおかけしてしまうこともあります。そのたびに原因を探り、改善に取り組んでいます。すぐに解決できることもあれば、時間をかけて解決していく課題もあります。それでも継続してお付き合いいただいている取引先の皆さまには感謝しかありません。私たちにできることは、これからも丁寧によりチーズを作り続けることだと考えています。



4～5月の出店実績と、直接の対話から生まれる新たな発見

4月は札幌市ワインショップフジキさんでの「チーズ試食会」、5月は東川町大雪木工さんでの「Meet up Furniture Asahikawa」、中川町の「花たびマルシェ」に出店しました。イベントはそれぞれ目的や来場者層が異なるため、何を求められていて、どんな準備が必要かを一から考える必要があります。難しさを感じることもありますが、直接お話しできる貴重な機会でもあります。また、思いがけない出会いや発見があることもイベント出店の魅力です。今後も機会があれば参加し、多くの方にチーズを知っていただけるよう活動していきます。



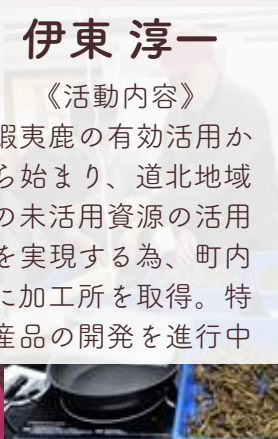
未活用資源を形に。 花たびマルシェとヨモギ茶研究の挑戦

食べるかい3年目：山菜天ぷら出店と惣菜加工への想い

「中川を食べるかい」による今年で3年目となった花たびマルシェでの山菜天ぷらの販売は、列車で来て下さるお客様にも評判になりつつあり、回を重ねる毎にお客様からの期待感を感じられる催しとなってきました。今回は、5月9日、16日、30日と3回の出店を行いました。毎回、約100食の山菜天ぷら盛り合わせ（6～7種類）を季節進行に応じながら山菜を採取し、下処理を行い、調理することは並大抵ではありません。食べるかいメンバーのみなさんの「喜んでいただきたい！」という強い思いによって実現できていることにいつも感謝しています。天ぷら盛り合わせに留まらず、天井や山菜寿司、山菜を使った各種惣菜など、この季節の地域資源である山菜を余すところなく使ってみなさんに食べていただきたいという思いは、年々強くなる一方で、将来的には旧さんかいらく工場での惣菜加工に繋げていきたいと思っています。

野草の可能性：林業試験場と挑むヨモギ茶の研究と量産

林業試験場の錦織支場長からお声がけいただき、有志の協力隊メンバーと共にヨモギを使用したお茶の研究を実施しました。ヨモギ茶と言っても奥が深く、新芽のみを使用するのは元より、熟成期間や揉みや乾燥時間、焙煎方法などによっても味が異なることが分かり、製造法を確立することだけでも一筋縄では行きません。錦織さんの指導の下、再現性のある製造法を見出すまでのプロセスは、何十種類も可能性があり、取捨選択していく様は楽しくもあり大変な作業でした。最終的に約40種類の組み合わせの中から1種類を選択！今は選ばれた製造法に則って量産加工段階にありますが、果たして味の再現性ができるのか、不安で仕方ありません。



起業型 伊東 淳一

《活動内容》

蝦夷鹿の有効活用から始まり、道北地域の未活用資源の活用を実現する為、町内に加工所を取得。特産品の開発を進行中



起業型

中村 直弘

《活動内容》

中川では、宿を開業する予定です。



世界が注目する中川の大工技術 多国籍メンバーでの挑戦

世界から届いた驚きの反響：「大工トレーニー募集」に見る新たな価値

こんにちは。中川町の中村です。今回は、2026年3月から6月までの活動についてご報告いたします。今年も、国内外から広く大工のトレーニー（研修生）を募集いたしました。すると、募集開始からわずか2週間で、世界25カ国以上から「130名」もの応募が殺到。そのうち約95%が海外からの応募という驚くべき結果となりました。昨今のAIの急速な台頭や技術の進化を受け、国境を越えて「自らの手で生み出す」ブルーカラーの仕事への注目や価値が、世界的に高まっているのかもしれない。

多国籍メンバーでの現場始動：大工仕事から広がる地域との豊かな交流

5月からいよいよ実際の現場での工事がスタートしました。5月・6月の期間には、秋田、京都といった国内の地域に加え、チェコ、イギリス、アメリカ、オーストラリアから計6名の熱意あるメンバーが中川町に集まってくれました。彼らとは現場での作業にとどまらず、地域に根ざした交流も大切にしています。まずは町へのリスペクトを込めて中川神社へのご挨拶に赴いたほか、休日にはみんなで地域の植樹祭にも参加しました。大工技術の習得だけでなく、中川町の豊かな自然や文化、人との繋がりに触れ、ここでしかできない体験を持ち帰ってほしいと考えております。大工の技術を伝える場が、今や世界と中川町を繋ぐ場所になりつつあります。今後とも、熱意あるトレーニーたちと共に精進してまいります。



化石公式
サイト



Official Site

中川の色と香りを形に。



任用型
反中 梨奈

《活動内容》
役場地域振興課に配属され観光振興やふるさと納税を担当

自然を届けるモノづくりと香りの体験

ブランド準備と薄荷栽培：桜や白樺の枝ペン制作と、秋へ向けた新たな学び

4月は、出店準備に取り掛かりました。自身が手がけるブランド「lily bug（リリィバグ）」として、皆さまにときめきをお届けできるよう、剪定された桜や白樺を使った枝ペンや、オニグルミの殻を砕いてディフューザーにしたトドマツのアロマボトルなどを手作業で製造。ブランドロゴや商品カードも新しく制作しました。また、私の蒸留の原点である薄荷（ハッカ）ですが、このたびエコミュージアムセンターで行われている「薄荷伝承栽培」への参加が決まり、新たな学びもスタートしています。今の時期はひたすら雑草を取り除く作業が続きますが、秋の蒸留会に向けて根気よく取り組んでいこうと思います。

マルシェ出店とワークショップ：アカエゾマツの香る体験とこれからの展望

5月は花たびマルシェへ初出店しました。クルミインクの試し書きやトドマツの香りを体験していただき、町内外の方々に中川町の色と香りの存在を知ってもらえる大きなきっかけとなりました。さらに、念願だった蒸留ワークショップも初開催！企業の方や海外のインフルエンサーなど5名の方にご参加いただき、中川のアカエゾマツの心地よい香りを体験していただくことができました。

今後は薄荷畑の管理に参加しつつ、自分でもプランターで育てて少量ずつでも蒸留に繋がたいと考えています。また、秋のモニターツアーの計画を詰めながら、クルミインクや蒸留のワークショップをさらに楽しんでいただけるよう試作を続けてまいります。ちなみに、次回の地域イベントは待ちに待った水切り大会。今年は娘が初参戦します！これからの活動も、どうぞ温かく見守っていただけると嬉しいです。



起業型 田辺 信彦

《活動内容》
道北の自然を写真
で発信、自転車アク
ティビティー開発、
中川町で道産食材の
飲食業起業。

道北から全国。 食・クリエイティブ・自転車で繋ぐ新たな可能性

地域を繋ぐ「North by North」の始動と、国内外で完売を記録したフリッツ出店

新年度の4月からはチームnorth by northとしての活動がスタートしました。チームnorth by northは道北を拠点にアクティビティーや食でつなぐ下川町、名寄市の移住者を中心とした道北の魅力を伝えていく団体で、僕自身も中核メンバーとして参画しています。4月は中川町、音威子府村、下川町でリンクし山歩き、食体験を1泊二日のイベントとして開催しました。

飲食事業のHOKKAIDO FRITES CLUBとしてはゴールデンウィーク期間はナカガワフードコートメンバーとしてエコミュージアムセンターとポンピラ温泉にてフリッツの出店も行いました。町外の出店は小樽市春香町で開催の山郷フェスへの出店、道外では富山県氷見市で開催のビーチマルシェに出店。どちらのイベントも3000人近い来場者となりフリッツ及び蝦夷鹿肉のビール煮込みは全て完売となりました。



全国を駆けるクリエイティブ事業と、 能登半島復興へ向けた自転車ツアープロジェクト

撮影、クリエイティブ事業も多くの仕事をいただき北海道内はもちろん全国各地での撮影にも担当させていただきました。知床の北こぶしリゾートグループの社内イベントの公式フォト、東京での日本最大級のULガレージブランドが集うイベントOff The Gridのイベント公式フォト、長崎県壱岐島にて釣具メーカーDAIWA社のイメージ撮影、広島県尾道市で開催のBIKELAND尾道のイベント公式フォト、シューズブランドKEEN社の北海道内での撮影と長野県野尻湖でのイメージ撮影などを行いました。

自転車のツアー事業として活動では石川県能登半島の復興プロジェクトでの自転車ツアーのディレクター及びイメージ製作の担当をさせていただくことになり能登半島へ2度の視察と撮影を行いました。



自然に浸り、感性を編む。 宿泊体験とデザインで伝える中川町の暮らし



起業型
橋爪 啓吾

《活動内容》
ゲストハウス運営
TeshioNakagawa
Vacation House

さっぽろライラックまつり出店と、心を満たすデジタルデトックスの提案

中川町の自然に囲まれた一棟貸し宿泊施設「TeshioNakagawa Vacation House」では、2026年4月から6月にかけて、施設の魅力発信と空間づくりの充実に取り組みました。春から初夏にかけては、札幌市で開催された「さっぽろライラックまつり」への出店を行い、中川町の観光PRや施設紹介を実施しました。来場者へ中川町の自然や暮らしの魅力を伝えるとともに、宿泊施設としての取り組みやデジタルデトックスをテーマにした滞在スタイルについて発信し、多くの方に関心を持っていただく機会となりました。

また、イベント出店だけでなく、SNSや各種媒体を通じた情報発信も継続して行い、「中川町に行ってみよう」「自然の中でゆっくり過ごしたい」と感じてもらえるようなPR活動に力を入れております。宿泊利用だけでなく、地域との関わりや滞在体験そのものを伝える発信を意識し、中川町の新たな魅力づくりにつなげています。



居心地の良さを求めて。

細部までこだわりアップデートする内装改修

施設内では、より心地よく過ごしていただける空間を目指し、内装の一部改修も行いました。キッチンの一部にタイル施工を取り入れ、素材感や温かみを感じられる空間へと少しずつアップデートしております。ヴィンテージ家具や木の質感とも調和するよう細部までこだわり、滞在中に落ち着きや居心地の良さを感じてもらえるよう整備を進めています。

「Kyo Hashizume」としての創作。 中川町の自然から着想を得た衣類制作

デザイナー活動「Kyo Hashizume」では、中川町の自然や空気感をモチーフにした制作も継続して行いました。町内に自生する植物や風景から着想を得た衣類制作を進め、自然の流れや形をそのままデザインへ落とし込む表現を大切にしています。宿泊施設での滞在体験と創作活動がゆるやかにつながる点も、この取り組みならではの特徴です。今後も「TeshioNakagawa Vacation House」と「Kyo Hashizume」を通じて、中川町の魅力を町外へ発信するとともに、地域の方々にも身近に感じていただける活動を継続してまいります。



地域資源を形に。 飲食拠点づくりに向けた準備



起業型

宮川 幸史

《活動内容》

地域の環境・観光コ
ンテンツの
開発と飲食店舗の起
業を目指す。



冬から春へ。天塩川流域と森林エリアでのフィールド調査

4～6月にかけては、雪解けから新緑へと移り変わる季節の中で、これまで継続してきた自然環境調査と並行し、町内での飲食店開設に向けた具体的な準備を進めました。春の山菜シーズンには、ふきのとうや行者にんにくをはじめとした地域食材の採取・観察を行い、自然体験と食を結びつけた活用方法について検討を重ねています。また、町内外の飲食店や地域イベントを視察し、地域に根ざした店舗づくりについて研究を進めました。単に食事を提供する場ではなく、中川町の自然や季節、暮らしの魅力を感じてもらえる「交流拠点」となる店舗を目指しています。地域食材の活用や、地元の方々が気軽に集まれる空間づくりについても構想を深めています。現在は、店舗購入に向けた情報収集や物件確認を進めており、立地条件や改修の可能性、営業形態などについて具体的な検討を行っています。今後は、飲食店を拠点として自然体験事業や地域観光との連携も視野に入れ、中川町ならではの魅力発信につながる形を目指していきます。



終わりのなきフィールド調査：研究林での知見蓄積と、これからの地域活性化への展望



並行して、フィールド調査や自然観察も継続して実施しました。春から初夏にかけての野鳥の動向や植生の変化を記録し、北海道大学中川研究林での学びや経験を活かしながら、自然体験プログラム構築に向けた知見の蓄積を進めています。これまでの活動を通じ、自然・食・人のつながりが中川町の大きな魅力であることをあらためて実感しています。今後も地域資源を活かした取り組みを進め、交流人口の拡大や地域活性化につながる活動を展開していきます。

食で広がる地域の輪。

町内外への出店とナカガワフードコートの躍進

起業型

川島 源徒

《活動内容》

ハンバーガーショップ
開業を目指し、現在は
交流プラザで販売中。
今後はイベント等にも
積極参加予定。



4月から6月までの出店を時系列にそって報告します

4 / 2 相沢食料百貨店（稚内市）

協力隊の鈴木さん、ト部さんと一緒にそれぞれの料理をお惣菜コーナーに出品させていただきました。

4 / 11 SUNNY SPACE（天塩町）

月に1度イベント的にカフェ営業しているSUNNY SPACEさんに出店のお話を頂き、天塩町で初めて出店しました。天塩町だけでなく、周りの遠別町や苫前町からもお客さんが来てくれていました。

4 / 25 north by north（道北）

下川町と中川町が主催で道北を回るツアーをやりました。僕が担当したのは、ハンバーガーのランチBOXを旧町営牧場の山頂で提供するというものでした。今後弁当のような形でハンバーガーを提供できるようにしていきたいと思いました。

4 / 29. 30 FLEA MARKET（道の駅なかがわ）

協力隊の豊嶋さんが主催している古着のイベントが道の駅で初開催でした。道の駅がTVに出た影響もあり、とてもお客さんが多く賑わっていました。



フォロー、いいね
お願いします！



NAKAGAWA_FOOD_COURT

5 / 3 北海道オフロードシリーズ（岩見沢市）

モトクロスレースが岩見沢で開催されていて、元々オフロードバイクに興味があり、縁あって出店させていただけることになりました。今後このようなスポーツなどのイベントにも出店したいです。

5 / 5～6 エコミュージアムセンター・ポンピラ温泉（中川町）

ナカガワフードコートとして出店しました。僕は2日のみの出店でしたが、他のメンバーで1週間以上営業していました。

5 / 9、13、16、30 花たびマルシェ

ナカガワフードコートとして、交流プラザ内のキッチンにて営業しました。

6 / 25～28 あいざわ大創業祭（稚内市）

稚内市の相沢食料百貨店の創業祭にナカガワフードコートとして出店させていただきました。



人と資源を紡ぎ、中川の魅力を体感する。 新拠点始動と多彩な交流の広がり



起業型

志村 晋平

《活動内容》

中川町の空き家を
ADDress住宅に転換
して、関係人口を増
やすプロジェクトで
活動しています。

新拠点のオープンと地域に根ざした活動：大報告会から 白樺樹液、子どもヨガまで

皆さま、こんにちは。地域おこし協力隊の志村です。

今期、私は「ADDress」の住宅物件の開発に注力いたしました。今年4月、町内ではアドレスの新拠点「北海道中川D邸」がオープンいたしました。地域開発振興公社の和泉さんに常駐いただき、A邸と合わせて来町される方々をお迎えする体制が整いました。

4月4日の協力隊大報告会では司会を務めさせていただき、町内外合わせて約100名の皆様にご来場いただきました。

この時期は、林業試験場の方々のご協力のもと白樺樹液の採取に立ち合わせていただいたほか、遠藤工業様での薪割り作業をお手伝いし、町の資源と人の営みに改めて触れる日々となりました。

中川町立中央小学校では1年生から6年生まで計6回のヨガ授業を担当させていただき、子どもたちの素直な反応から多くを学びました。



躍動する5月：観光列車での車内ヨガ、 企業視察アテンドと未来へ繋ぐプロジェクト

5月は、観光列車「花たびそうや号」の車内ヨガを4週連続で提供。停車時間の30分に4両を巡る限られた時間ではありましたが、JR・メモトック様はじめ多くの方のご協力により、お客様にも大変喜んでいただきました。

中旬には株式会社スマイルズ様の3日間の視察を受け入れ、森歩き、林業試験場の錦織場長のご案内、宮川さんの山菜採りツアー、そして道北の食材を活かしたお食事会など、道北の魅力をお伝えしました。

下旬は研究林公認ガイドプログラムを再受講し、無事修了証をいただきました。地域おこし協力隊の中村さんの「化石」プロジェクトの大工トレーニングにも参加し、海外からの仲間と共に作業する貴重な時間となっております。





起業型

豊嶋 めぐみ

《活動内容》

衣料品や雑貨などを扱うセレクトショップの開業を目指す。

新たな会場での挑戦！ 道の駅出店とアリーナでの古着マーケット大盛況

新たな会場への挑戦：GWの道の駅イベントと道北エリアの事業者との交流

皆様、こんにちは！いつもイベントにご来場していただきありがとうございます！！今回はGW期間中（4月29日～5月6日）に道の駅で開催した『DOUBLE ARMS PLUS』と6月6日～7日に生涯学習センター ちゃいむアリーナで開催したドラセナガレージセールさんとの古着販売イベント『FLEA MARKET in NAKAGAWA』についてご報告させていただきたいと思います。今回の2つのイベントは、いずれも新たな会場での開催となり自身にとっても新しい挑戦となりました。活動を重ねるごとに内容や規模を少しずつ発展させながら、地域の賑わいづくりや交流の場づくりに取り組んでいます。またイベントを通じて道北エリアで活動する事業者や自身の活動を知っていただく事も目的のひとつとしています。『DOUBLE ARMS PLUS』では、自身のショップの他にHungry manさん、7%Kitchenさん、伊東淳一さん、木工ノビタキさんに出店していただきました。期間中の来場者数は約200人となり町民の方々や観光客との交流を深める機会となりました。

400人が集まったフリーマーケット：仲間との協力、そして実店舗への想い

『FLEA MARKET in NAKAGAWA』では、ドラセナガレージセールさんとの2回目のコラボ企画により会場も拡大。道北エリアの事業者様に声をかけ合計16店舗が出店。2日間で約400人の来場がありました。また、開催にあたり会場のアリーナは設営の搬出入の作業の規模も大きく、地域おこし協力隊の仲間達にも協力していただきました。また、町民の方々にもフリーマーケットブースへ出店していただき「新しいことに挑戦できて楽しかった」と感想をいただくなど、新たな形の交流の機会を創出することができました。更に自身がセレクトした古着や雑貨、リメイク商品についても継続してイベントで販売する中で毎回足を運んでくださる方が増え、応援してくださるお客様とのつながりも深まり、継続して活動することの大切さを改めて感じています。今後も地域の皆様とのつながりを大切にしながら、新たな挑戦を重ね、実店舗のオープンや地域を活性化していく活動を継続していきたいです。





課題解決型 和泉 竣也

《活動内容》

中川町地域開発振興公社で特産品・観光コンテンツの企画開発を通じ、関係人口の拡大に取り組んでいます。

中川ならではの魅力を観光に。 活動報告会とライラックまつりでの手応え

活動大報告会「なぜ今、中川町なのか？」観光の未来を考えました

4月4日に開催された地域おこし協力隊活動報告会に参加し、中川町の観光の可能性についてお話させていただきました。当日は多くの町民の皆さまにご来場いただき、普段どのような活動をしているのかを知っていただく貴重な機会となりました。トークセッションでは、エゾシカ旅行社の中根萌さんをファシリテーターに迎え、「なぜ今、中川町なのか」をテーマに意見交換を行いました。天塩川や広大な森林、野草やハーブといった自然資源だけでなく、アンモナイトの化石や和ハッカ、斎藤茂吉ゆかりの歴史文化など、中川町には他の地域にはない魅力が数多くあります。参加者の皆さまとお話を伺うと、「普段当たり前だと思っていたものが実は大きな地域資源だった」と改めて感じる場面も多くありました。今後はこうした中川町ならではの魅力を活かし、「癒やし」と「文化」をテーマにした新しい観光づくりや関係人口の創出につなげていきたいと考えています。



「行ってみたい！」の声続々 ライラックまつりで中川町をPR

5月20日から札幌市大通公園で開催された「さっぽろライラックまつり」に出店し、中川町の魅力を発信してきました。今年は「中川町リトリート」をテーマに、自然や文化、人とのつながりを通じて心と身体を整える滞在プランを紹介。ブースでは、「日帰り・1泊2日・2泊3日」のモデルプランを展示し、「中川町でどんな時間を過ごせるのか」を具体的にイメージしていただけるよう工夫しました。来場者の皆さんからは、「自然の中でゆっくり過ごしたい」、「こんな場所が北海道にあるとは知らなかった」、「ぜひ一度訪れてみたい」といった嬉しい声をたくさんいただきました。

特に札幌圏の40代から60代の方々の反応が良く、実際に5組の方と来町に向けた日程調整を進めることができました。都市部では、自然の中で心身をリフレッシュできる場所への関心が高まっていることを改めて実感しています。

今後はモニターツアーを実施しながら内容を磨き上げ、中川町ならではの観光の形をつくっていきます。そして、観光だけで終わらない「また来たい」、「もっと関わりたい」と思ってもらえる関係づくりにつなげていきたいと考えています。



起業型 平塚 映子

《活動内容》
旧三箇邸で昭和レトロなアンティークショップ兼喫茶店を開業。鉄道模型ジオラマ館併設予定。町イベント時の救急看護も担当。

木工所跡地に新たな息吹を。 ゴミから宝物へバトンを繋ぐ、お店づくりの始まり

荒れた土地と家屋への挑戦：自然や虫たちとの闘いと、再生への手応え

中川4区の木工所跡地に喫茶店アンティークリサイクルショップ開店に向け、土地の整備と空き家残置物の整理と掃除を始めました。来る日も来る日も大量のゴミの分別、次々生えてくるたくましい草たちや蔓延る根との闘い。冬眠していた蝇たちの集団！蝇玉！に悲鳴をあげ、蜘蛛の巣に引っかかり。。。しかし、荒れて寂しかった場所が少しずつ命を吹き返して再生していき、なんだか家と土地が喜んでいてくれているような実感があります！

物に新たな命を吹き込む：町内のお片付け依頼から目指すアンティーク店の理想

他にも中川町内の2軒のお宅から依頼があり、片付けや不用品引き取りをさせていただきました。ゴミにしようと考えていたものたちが、視点を変えれば可愛いや好き、貴重だと感じる人にバトンタッチするお手伝いをしたり、再生して販売する、そんなアンティークリサイクルショップを目指し、今日もまずはお掃除から始めます！



世田谷ふるさと区民まつりを終えて： 中川町の魅力を繋ぐ私たちの役割

初夏の世田谷区民まつり：

「中川牛」を全面に打ち出した新たな挑戦

例年は8月に開催されていた「世田谷ふるさと区民まつり」ですが、今年度は6月6日・7日にJRA馬事公苑での開催となりました。真夏の厳しい暑さとは異なり、初夏のみずみずしく涼しい気候に恵まれたことで、午前中から会場は多くの来場者で大いに賑わいました。私たちのミッションは、この大舞台で「北海道中川町」の知名度を高め、一人でも多くの方に興味を持っていただくことです。例年はフランクフルトやベーコンをひたすら焼き上げるスタイルが定番でしたが、今年度は中川町が誇るブランド「中川牛」の美味しさを全面に打ち出し、極上の特産品として牛串を炙りながらアピールしました。



起業型

橋爪 淑子

《活動内容》

サテライトショップ
と中川町関係人口増加
作戦を遂行。
空家対策不動産事業。
茶道、ワイン、日本酒
講座開催。

サテライトショップの強みを活かした魅力発信

ブースでは、お客様から「北海道に住んでいた」「旅行で行ったことがある」といった北海道への憧れや思い出が次々と語られ、短い接客時間ながらも温かいふれあいの輪が広がりました。また、世田谷区下高井戸にある中川町のサテライトショップの存在をご存知の方も多く、「ソフトクリームがすごく美味しい！」「イベントで食べたものが美味しかった」と声をかけていただく場面もありました。他自治体にはないこのサテライトショップという強みを活かし、酪農の町ならではの牛乳ソフトクリームや、今後登場するチーズなどの魅力を直接ご案内できたことは、大きな収穫です。2日目の7日は雨予報もありましたが、用意していた商品は早々と完売。役場職員、サテライトスタッフ、日大桜麗祭実行委員の方々、アルバイト、私たち協力隊がそれぞれの役割を全うし、怪我人や体調不良者を出すこともなく、祭りを大盛況のうちに終えることができました。今回の繋がりを大切に、これからも中川町の魅力を発信し続けてまいります。





鹿肉の「概念を変える」挑戦。 販路開拓と駆除支援、 そして施設設立へ



起業型
ト部 悠人

4～6月の活動：多彩な鹿メニューの反響と、 有害駆除・町内外での出店実績

昨年8月に移住し、屋号「悠鹿（HARUKA）」のもとエゾシカの捕獲・処理・販売を主軸とした『食と体験』の事業を展開しています。4～6月はイベントへの出店機会が多く、ポンピラ温泉での夜間営業やエコミュージアムセンターでのランチ、毎週の「花たびマルシェ」などで鹿ラーメンや鹿カレーなど多彩なメニューを提供しました。「鹿肉のイメージが変わった」との声も多くいただき、他店でも鹿メニューが導入されるなど、鹿肉に対しての価値が地域に浸透しつつあると思っています。また、4月からはエゾシカの有害駆除にも協力。猟友会と連携し、農業被害の軽減に貢献しながら捕獲技術や地理感覚を蓄積する貴重な準備期間となりました。鹿肉の販売も順調で、3月までの在庫はほぼ完売。ペット用鹿肉の販路や新たな取引先との関係構築も着実に進んでいます。4月の大定例会では田辺さんの撮影した映像で活動の魅力を届けられたほか、台湾モニターツアーでの夕食提供や小樽市・稚内市への出張営業など、ナカガワフードコートの仲間と共に町外・海外へも魅力を発信しました。

《食と体験》というテーマのもと、狩猟や解体、精肉販売、料理提供等によるジビエの普及活動はもちろん、狩猟体験ツアーも計画中です



今後の活動：食肉処理施設の整備、ふるさと納税、 そして狩猟ガイド事業の始動へ

夏以降の最大の目標は、令和9年8月頃の完成を目指す「自身の食肉処理施設」の整備と許可取得です。10月の狩猟シーズン開幕に合わせた稼働に向け、設備・技術両面で準備を進めています。また、令和8年度中のふるさと納税返礼品へのエントリーに向けた商品づくりも本格化させ、中川町の鹿肉を全国へ届ける準備を加速させます。10月からは狩猟体験やガイド事業も開始予定です。経験者向けガイドから未経験者向けツアーまで、SNSや観光協会と連携し、中川町を代表する観光コンテンツに育てていきます。心強いことに、道北の若手ハンター達が秋からの狩猟・解体を手伝ってくれることになり、事業のさらなる加速が期待されます。引き続き、地域の皆様との連携を大切に全力で活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



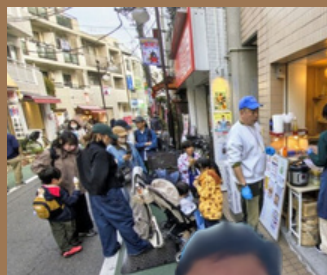
中川町の特産品が当たる！？ スタンプラリーが大好評！



夏に向かって気温がぐんぐん上がってくる、今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。協力隊・中川町地域開発振興公社の佐々木です。このところ、中川町はイベントが目白押し。あっという間に6月を迎えてしまいました。

さてそんなバタバタしていた期間に公社主催で行ったイベントについてご報告いたします。それが「下高井戸大さくらまつりスタンプラリー」です。中川町と関わりの深い「世田谷区・下高井戸商店街」その下高井戸商店街に中川町のサテライトショップ「ナカガワのナカガワ」は店を構え、公社はその運営を行っています。今回は「大さくらまつり」に合わせスタンプラリーを実施。下高井戸商店街11店舗のご協力の元、参加者は各店舗を回ってスタンプを集める。

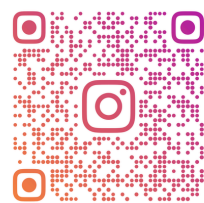
スタンプカードはビンゴ形式になっていて、列が揃うごとに1口応募が出来るというもの。最大8口です。1等は中川町が誇る「ナカガワ牛のサーロインステーキ」その他、中川町産はちみつやソフトクリームの無料券など中川町が満載の賞品を用意しました。



当日のサテライト前では協力隊の伊東淳一さんによるエゾシカのホロホロ煮などをパンに挟んだ「コッペパンシリーズ」の販売を実施。天気が良かったこともあり店舗前は大行列。当日は佐々木も東京に向かい、合間でスタンプカードを配りつつ、ビールを提供したり、自称中川のセールスマンとして会計待ちのお客様にサテライトで取り扱っている商品を紹介したり・・・

結果、スタンプラリーは約70名のたくさんの方にご参加頂きました。公社のインスタをご覧になっている方はお気づきかと思いますが抽選結果を今回、インスタに動画コンテンツとしてアップ致しました。

厳正なる抽選を行ったのは、あの「今日の斉藤さん」でおなじみの中川町商工会の斉藤さんです。（商工会にもイベントのご協賛をいただきました）もしお時間ございましたら、ご覧頂けますと幸いです。



NAKAGAWA_NO_NAKAGAWA

課題解決型
佐々木 樹

《活動内容》

中川町地域開発振興公社で特産品・観光コンテンツの企画開発を通じ、関係人口の拡大に取り組んでいます。





自然の力で心と体を 癒す健康づくりの 第一歩

中川の自然に感動する日々、トレーニング指導とイベントでの交流

4月から起業型地域おこし協力隊の一員になりました、新谷圭子です。移住して2か月、風や野花のにおいや鳥や虫の声、星の数や月の満ち欠けがこんなにも1日1日変わっていくことに気づかれ、地球で生きていると実感し感動する毎日です。

4月～6月の活動について林業試験場、他協力隊と一緒に野草茶作りに取り組みました。5月から教育委員会さまのご後援で、ちゃいむにて「サボリ筋トレーニング」を開催しています。とてもありがたいことに好評をいただき、今後は昼間に加えて夜間の時間も増やして開催する予定です！・GW企画のエコミュージアムランチやポンピラ居酒屋、花たびマルシェでのナカガワフードコートのお手伝いで参加し、イベントに訪れた多くの方々と大変楽しく交流させていただきました！

《これからの活動》

- ・中川の大変豊かな自然の力を活用した「ヘルスツーリズム（心が疲れた方々を癒す旅）」を企画。
- ・植物（野草）が持つ薬理作用に注目した商品づくり（野草茶など） また、多くの町内イベントや活動に参加して多くの方に私のことを知っていただきたいし、特に1年目では自身の研鑽活動に取り組み健康づくりの技を増やし、皆さんの健康づくりに役立てていきます。

5月イベント中、町民の方から「新しく人が増えて中川がどんどん楽しく盛り上がってきて嬉しい！」という大変嬉しいお言葉を頂きました。この言葉には、これまで多くの町民の方々の協力や応援、また多くの先輩協力隊の皆様の努力の賜物です。私もその一員となれてとても嬉しい気持ちと、この変化を良い形で継続していかねばと身が引き締まる気持ちでいっぱいです。これからも皆さんと元気に楽しく中川ライフを送れるよう頑張ります！



起業型

新谷圭子

《活動内容》

中川町内外の方向けに、ヘルスケア・健康増進活動に取り組めます



誰もがふらっと集える温かい居場所を。 コミュニティづくりへの第一歩

上川町「PORTO」での学びと目指す場所

こんにちは。4月から任用型地域おこし協力隊として活動しています、片峰麻美（かたみねまみ）です。中川町に来て、早いもので3ヶ月が経ちました。町で見かけた際に温かく声をかけてくださるみなさん、本当にありがとうございます。今回は、これから取り組む活動への想いをお話しします。私が任期中に取り組みたいのは、地域のコミュニティスペースの運営と、世代を超えて楽しめるイベントの企画です。町民のみなさんが、ふらっと立ち寄り笑顔で過ごせるような、あたたかい居場所を町の中に作っていきたいと考えています。

6月には、上川町の交流&ワークキングスペース「PORTO（ポルト）」へ研修に行き、まちづくりや地域コミュニティの在り方について学ぶ機会をいただきました。そこで得た刺激や視点を活かし、中川町でもみなさんが自然と集まれるような機会や、居心地の良い場所をつくっていききたいと思います。

「小さなおしゃべり」から始まる新しい一歩

活動を進めていくにあたっては、何よりも町民のみなさんとの対話を大切にしたいと思っています。みなさんが、日々の暮らしの中で感じていることや、次の世代に残したい中川の好きなところなど、たくさんお話を聞かせてください。「こんなことができたならおもしろいだろうなあ。」という小さなおしゃべりから、新しい活動のヒントを見つけていきたいです。

まずは名前と顔を覚えていただき、困ったときに「ちょっと手伝って。」と気軽に声をかけてもらえるような存在を目指します。中川町の一員として、みなさんと一緒に新しい一歩を踏み出せるのが今からとても楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。

任用型
片峰麻美

《活動内容》

子どもたちの元気な声
が響く町へ。地域の
多世代が優しくつ
ながる仕組みづくりに
挑戦中です。

大工の技術を地域の力に。 空き家再生と住まいの修繕への挑戦

中川町での学びと、外壁・屋根修繕の実績

こんにちは、山口拓海です。普段は大工として仕事をしています。

4月に中川町へ移り住んでからは、町内の空き家や公共施設を見て回ったり、地域の方々のお話を聞いたりしながら、中川町について少しずつ学んでいます。

4月から6月にかけては、住宅の外壁増し張り工事や雪の重みによって破損した屋根の修繕工事、建物の一部減築工事などに携わりました。また、空き家となっていた住宅を再び住める状態にするための改修プロジェクトも進めています。

起業型

山口 拓海

《活動内容》

空き家の修繕・維持管理を通じ地域の住環境を向上、安心して暮らせる環境づくりに貢献。

建物の再生を通した、これからの暮らしづくり

実際に作業をしていると、住宅を維持していくことの大変さや、空き家を活用していくことの重要性を日々感じています。一方で、手を加えることで建物が再び使える状態になっていく様子を見ると、大工として大きなやりがいを感じます。

これからも空き家の再生や住まいに関するお手伝いを通して、地域の皆さまの暮らしに少しでも役立てるよう取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



アパレルから愛犬との暮らしへ。

「F'aizee Dog」 と地域資源の融合



起業型

外崎翔大

《活動内容》
ドッグウェアを通じて
地域活性化と関係
人口を創出

ドッグウェアブランド展開と地域資源のおもちゃ開発

外崎翔大（とのさき しょうだい）は、北海道文化服装専門学校を卒業後、アパレル会社にて約2年間販売職として勤務し、接客やスタイリング提案を通じてコミュニケーション力や提案力を培いました。2025年には有観客ファッションショーへ出展させていただきました。現在は、愛犬と飼い主がより豊かで楽しい時間を過ごせることを目指し、ドッグウェアブランド「F'aizee Dog（フェイジードッグ）」を運営しています。素材や着心地、安全性にこだわった商品制作を行い、人と犬が共に楽しめるライフスタイルの提案に取り組んでいます。中川町では、地域おこし協力隊として自身のブランド活動と地域資源を掛け合わせた地域活性化に取り組んでいます。道内外で開催するポップアップイベントを通じて、中川町の魅力、自然環境などの情報発信を行い、交流人口の拡大と地域認知度の向上を目指しています。また、中川町の木材や地域資源を活用した犬用おもちゃの企画・開発・販売を進めています。

ポップアップでの魅力発信と、2026年10月のファッションショー開催へ向けて

さらに、2026年10月には中川町を会場としたファッションショーの開催を予定しています。人と犬が共に参加できるイベントとして地域内外からの集客を図り、中川町の魅力を広く発信していけたらと思っています。





令和8（2026）年7月発行

発行 中川町地域おこし協力隊
中川町地域振興課